

## 「御霊によって仕える」

(ローマ7:1-6)

### 一、パウロは不安だった？

ローマ人への手紙を読み進めてまいりましたが、パウロ先生はひょっとして、不安を抱いていたのではないかと、私は思いました。もっとも、パウロ先生が不安を抱いていたとするなら、健全な不安です。「私はみことばを語っている。すなわち、キリストの福音を語っている。しかし相手に届いているだろうか」という不安です。と言いますのは、パウロ先生が語ったことばは、3章21節22節で、語りつくされたと思われるからです。へしかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えらるる神の義です。そこに差別はありません。と。なのに、延々と語られます。8章の終わりまで続きます。語っても語っても、「大丈夫かな。分かってもらえたかな。私はこう言っただけでも、誤解する人が出てくるかもしれない」という不安です。

### 二、パウロが用いたたとえ

1節を見てまいります。〈それとも

兄弟たち、あなたがたは知らないのですか——私は律法を知っている人たちに話しています——律法が人を支配するのは、その人が生きている期間だけです。〉とあります。パウロ先生が語ったことばを、よく見ていただきたいです。「私は律法を知っている人たちに話しています」と語っています。手紙の受取手である、ローマに興された教会である、主イエス・キリストを信じる群は、多くの異邦人キリスト者と少数のユダヤ人キリスト者から成っていたと思われ

ます。異邦人キリスト者にとっては、ユダヤ人キリスト者がこだわる律法は、すなわち旧約聖書については、知識がないばかりか、そのようなものにこだわり続けているユダヤ人キリスト者にうんざりしていた、というのが現状だったと思われまます。なのにパウロ先生は、ローマの教会の全員に向かって、「私は律法を知っている人たちに話しています」と語ったのです。変だと思いませんか。たしかに変です。ただしそれは、私共が翻訳もので読むからです。パウロ先生は、実際にことばを巧みに用いています。「律法」と訳された元のことばは「ノモス」です。「ノモス」は、ユダヤ人にとっては「律法」を意味し、異邦人にとっては「法」、ないしは「法律」を意味することばです。ちなみに「ノモス」の元の意味は、「法」「法律」です。そういうわけでパウロが語ったときに、

ユダヤ人キリスト者は、「律法」として受け止めたでしょうし、異邦人キリスト者は「ローマの法律」を思い浮かべたことでありましょう。

では、その先を見てまいります。2節です。〈結婚している女は、夫が生きています。しかし、夫が死んだら、自分を夫に結びつけていた律法から解かれます。〉とあります。それは、ユダヤ人にとっても、ローマに生きる人々にとっても、当然のことでした。「ノモス」を、ユダヤ人キリスト者が「律法」と受け取るうが、異邦人キリスト者が「法律」と受け取るうが、世にあって夫婦は、法によって結ばれています。ですから、夫が死ねば、妻は、律法ないしは法律の縛りから解かれるわけです。

続いて、3節を見てまいります。へしたがって、夫が生きている間に他の男のものとなれば、姦淫の女と呼ばれますが、夫が死んだら律法から自由になるので、他の男のものとなっても姦淫の女とはなりません。とあります。これも、世における当然の秩序です。

パウロは何を語ろうとしているのでしょうか。それは、主イエス・キリストを信じる者は、「律法」という以前の「夫」から解かれて、「福音」という新しい「夫」に嫁いだことです。あるいは主イエス・キリストを信じる者は、おきてに従うという古い生きから解かれて、御霊に

導かれる新しい生き方に移されたことです。

### 三、御霊によって仕える

今からお語りすることは、私玉川がそのように受け止めていることとしてお聞きください。私は、信仰者は「こうでなければならぬ」という規則のような教えから解放され、御霊に導かれて自由に活動したら良いと思う者です。御霊に導かれるとは、聖書のことばに養われ、御霊に導かれることです。御霊によって「だれそれさんの所に行きなさい」と導かれるなら、「ひょっとすると、自分の思い込みかもしれない」という思いがあったとしても、それを実行に移したら良いと思う者です。御霊とは聖霊であり、神御自身ですから、決して私共を罪に誘うことはありません。

御霊の導きを知っている人は、次のように願っているはずで、「主よ、私を導いてください。私をお使いください。みことばを行うものとならせてください。そのために、私の全存在をお使いください」と。これが神のわざであり、御霊に導かれている人の特徴です。

どうぞ皆さま、みことばに養われて、主が備えてくださった幸いを得て、教会生活、信仰生活を送ってください。そのためには、御霊によって主にお仕えることが、鍵になります。